

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在 江戸川区立上小岩第二小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	45.0%	55.0%
令和 7 年度の目標	40.0%	50.0%
令和 6 年度の結果	34.7%	46.2%
令和 5 年度の結果	47.6%	40.5%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	35.9%	35.8%
第 5 学年	37.8%	46.7%
第 4 学年	47.1%	49.1%
第 3 学年	50.0%	55.1%

 ともに、生きる。 江戸川区	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	- 算数科の授業を中心とした、問題解決型の授業の定着、推進する。 - 校内研究と学力向上を連動させながら、児童に対して、具体的かつ、効果的な指導を行えるようにする。 - 児童が自ら学びに向かうことのできるような教師の指導、支援の方法を見いだせるようなOJT研修を行う。	- 家庭学習等で、ドリルパークを活用を推進し、基礎学力の定着を図る。 - 朝学習の時間に、各学年の実態に応じた取り組みを行う。（計算力向上、YOMUよむワークシートの活用等） - 放課後補習教室の戦略的に活用する。	- 家庭学習の定着に向けた宿題の実施方法の工夫、改善を行う。 - 江戸川っ子StudyWeek！を中心としたドリルパークの活用を推進する。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	C、D層の学びにくさを改善するために、各学級に配当されている実物投影機等のICT機器を活用することで授業のユニバーサルデザインを行う。	- C,D層の児童を中心に、多様な児童が放課後補習教室に参加できるような体制を整え、効果的な指導を行う。 - ドリルパークを活用し、当該学年より前の学び直しができるような家庭学習を推進する。	児童の実態に応じた家庭学習を行えるように個人面談等で情報提供を行い、家庭と連携を図る。
成果指標	児童への実態調査において「算数の授業で「できた」「わかった」があった」と回答した児童が75%以上を目指す。	東京ベーシックドリル、江戸川区学力定着度調査7割達成者85%以上を目指す。	保護者への実態調査において「学校は、家庭に対して学習習慣の定着について働きかけている。」と回答している保護者が90%以上を目指す。